

# ともに

## なるほど 特別支援教育 その1



### はじめに

新宿区では一人ひとりの子どもが豊かに学べる環境を目指して、個に応じたきめ細かな教育を推進しています。今回、区の特別支援教育の理解啓発を目的に「ともに」を創刊しました。

「ともに」を通して、子どもの成長への不安が少しでも和らいだり、今後の子どもの成長を支え可能性を伸ばすために、特別支援教育についてともに考えていただくきっかけになれば幸いです。

## 特別支援教育を受けて卒業した子どもたちのその後 (協力：新宿区手をつなぐ親の会)

息子に障害があると分かったのは、彼が2歳半の頃です。区内の療育にお世話になりながら幼稚園を卒業しました。当時、絵を描く時間に先生から「自分の作品だとわかるように名前を書いてね。」と言われて「なまえ」と書いてしまう言葉通りの行動に不安を覚え、「就学先は本人の生活スキルの土台をしっかりと築ける学校に」と願い、地域の特別支援学校の小学部に通いました。先生方が、息子の成長の度合いを見極めながら個々に寄り添った年厚い支援をしてくださり、小学3年生の時に区内の特別支援学級に転学し、中学3年生まで通いました。

特別支援学級のお友達と過ごした時間、通常の学級との交流で給食やクラブ・委員会活動などを通し、「やりたい・やってみたい」と自分から意欲的に発信できるようになったのもこの頃だと思います。

今、息子は17歳になり以前通った特別支援学校の高等部に通っています。当時の同級生との再会を喜び合い、また新しい仲間たちと学び、一緒に余暇を楽しんでいます。

知的障害があり、5才半まで歩けなかった娘は特別支援学級・特別支援学校を経て昨年特例子会社に就職しました。まだまだ出来ないこともたくさんありますが、温かな支援を受けながら今日も仕事を頑張っています。将来を心配していた小学校の頃には到底想像できない姿です。その成長の糧となったのは、学校時代に培った日常生活行動の獲得にあると思います。小学校での歯みがき練習が、中学でも継続され習慣化し、高等部では「身だしなみ」としての意味付けを教えられました。生活行動の一つひとつを毎日学校で学び、その経験と積み重ねが社会人として生きるためのスキルとなり、自立への歩みに繋がったのだと思います。

特別支援学級・特別支援学校の先生方はできないことを見極め、伸ばそうと工夫を凝らし密に関わってくださいました。小さな集団でしたが、仲間と一緒に活動に取り組み、楽しみながらできたことで自信と肯定感を持つことができました。個を大切に、一人ひとりが主人公になり輝けた学生生活は娘にとっての宝物だと思います。

就労はしましたがそれがゴールではなく、継続して働けるよう、また自分らしく楽しく生きていけるようこれからも親として応援していきたいと思っています。

息子はダウン症候群の障害があって、この世に生を授けられました。合併症の関係で幼稚園頃までは体が弱く、偏食で、すぐに体調を崩しては入退院を繰り返しておりました。

そんな息子に訪れた転機が、学区の小学校にあった特別支援学級への入学でした。入学当初、息子は給食を食べるのが嫌で、通学路では道にしゃがみ込み泣いて登校を拒否し、登校後も給食の時間になると、避難訓練のように机の下に潜り込み出てこないという日々でした。そんな状態が2週間くらい続いたでしょうか。見兼ねた私が担任の先生に、「自宅からお弁当を持参させてもいいか」と相談をもちかけたところ、担任の先生は真っ直ぐな目で私を診てになりながら「お母さん、あと1週間だけ時間をください。」とお答えになりました。そして、あれだけ偏食であった息子が、給食ではなんでも食べられるようになったのは、それから程なくしてのことでした。

息子は現在、二十一歳。福祉作業所の建物を清掃する仕事をしています。いまだにパンだけは苦手ですが、野菜も肉もお魚も大好き。もりもり食べて、元気に毎日働いています。あの時の担任の先生の熱心な指導がなければ、息子は今も偏食で、病気がちだったかもしれません。本当に、本当に感謝しております。有難うございました。

「ともに なるほど特別支援教育その①」はいかがでしたか。  
次回は身体障害に関する特別支援教育をテーマにご紹介予定です。

## 特別支援学校 小・中学部 生活習慣～社会で生活するのに必要な力を育てます

- 新宿区は、東京都立中野特別支援学校が通学区域になります。家から学校まで遠い場合はスクールバスで通学します。
- 普通学級（知的障害学級・自閉症学級）と重度・重複学級の3つの教育課程があります。
- 特別支援学級よりも、より一人ひとりに合わせたきめ細かな指導を行います。

毎日の生活に見通しが持てるように工夫し、安心して学校生活を過ごすようにしています。



### 副籍制度

都立特別支援学校に在籍しながら、住んでいる地域の学校（地域指定校）に副次的に籍をもち、様々な交流を通じて、地域とのつながりが広がる制度です。  
(交流内容：学級活動への参加、音楽会への参加、お便り交換など)

### 本人の感想

- ・いつもと違う授業が楽しい
- ・お友達が街中で声をかけてくれるようになった
- ・指定校の先生と仲良くなった

### 保護者からの感想

- ・地域の行事に参加してみようと思えるようになった
- ・多くの出会いと体験が子どもの世界を広げてくれていると感じる
- ・より安心して地域で暮らせるようになったし、「自分たちも地域住民なんだ」という気持ちが高まった

## 主な進学先 (高等部 特別支援学校)

**普通科** 学区指定制です。入学するには入学相談を受けます。社会生活に必要な力から就労まで、本人に合わせて必要な指導を行います。  
(新宿区の通学区域：中野特別支援学校、練馬特別支援学校 (一部地域))

**就業技術科** 入学者選考があります。就労に必要な基本的・専門的な知識や能力を身につけ、地域社会の中で暮らしていく力を育てていきます。  
(例：永福学園、南大沢学園、青峰学園、志村学園、水元小舎学園など)

**職能開発科** 入学者選考があります。就労先で求められる知識と技能を習得し、任された職務を正確にこなせる力を育て、企業等への就労を目指します。  
(例：港特別支援学校、足立特別支援学校、江東特別支援学校など)

その他にも、都立高校のエンカレッジスクールやチャレンジスクールなどがあります。

今回は **知的障害** に関する特別支援教育をテーマにご紹介します

### 知的障害とは

「記憶、推理、判断などの知的機能の発達に有意な遅れがみられ、社会生活などへの適応が難しい状態」をいいます(文部科学省ホームページより)。知的障害がある人は本人のペースでゆっくり成長していくため、「一度にたくさんのことが覚えられない」、「理解するのに時間がかかる」、「判断するのが苦手」、「初めてのことが苦手」など、生活の様々な場面で不自由さを感じる場合があります。しかし、一人ひとり容姿や性格などが異なるように、特性は人それぞれに異なります(知的障害児(者)には、自閉症やダウン症候群を併せ有する方もいます)。

### 教育

自分の可能性を自分らしく伸ばしていける教育の場として、通常の学級の他に特別支援学級・特別支援学校があります。特性に合わせて、実際の生活場面に即した具体的な学習を通して、一人ひとりの教育的ニーズに対応した指導を行っています。

### メモ

愛の手帳(知的障害の方に交付される手帳)があることで、様々な支援が受けやすくなる場合があります。

### 特別支援学級・特別支援学校の特徴

- **学級編制が違います。**  
通常の学級:1学級 **40人以下** 特別支援学級:1学級 **8人** 特別支援学校:1学級 **6人**  
(小学校1年生は1学級35人以下)
- **個別指導計画と学校生活支援シートの作成により、一人ひとりに合わせた指導を実施しています。**  
個別指導計画 一人ひとりに合わせた学習や生活についての指導目標や指導内容・方法を、本人・保護者と話し合いながら担任が作成します。学校と保護者が連携して共通認識をもつこと、一人ひとりの教育的ニーズに対応した指導が行えるようにすることが目的です。  
学校生活支援シート 本人や保護者の希望を踏まえながら、乳幼児期から学校卒業後まで一貫した支援を行うための計画を、保健、医療、福祉等の様々な関係機関と共有し連携していくために、学校が中心となり作成していくものです。ライフステージが変化しても支援が続く「ツール」となります。
- **日常生活の指導と生活単元学習の授業があります。**  
日常生活の指導 食事や着脱、トイレ、挨拶、言葉遣いなど、基本的な日常生活について、丁寧に段階的に指導することでできることを増やし、しっかりとしたマナーを定着させます。マナーの定着はやがて就職のときや自立した生活を送るための基盤となります。  
生活単元学習 日常生活を送るうえで必要となる知識、技能、態度を高め、様々な体験を通し、主体的に活動する力を身につけるものです。行事単元(事前事後学習)、制作単元、生活課題単元(まち探検、調理、買い物等)があります。将来の社会生活の基盤を作り、自立や社会参加など、実際の生活場面で活用できるようになることを目的としています。

### 新宿区内には 小学校5校、中学校3校、計8校の特別支援学級(知的障害)があります!

#### 小学校

- 愛日小学校(若竹学級) 新宿区北町26
- 東戸山小学校(若草学級) 新宿区戸山2-34-2
- 花園小学校(新苑学級) 新宿区新宿1-22-1
- 落合第二小学校(若葉学級) 新宿区上落合2-10-23
- 柏木小学校(柏葉学級) 新宿区北新宿2-11-1

#### 中学校

- 四谷中学校(新苑学級) 新宿区四谷1-12
- 西新宿中学校(E組) 新宿区西新宿8-2-44
- 新宿中学校(若草学級) 新宿区新宿6-15-22

### 特別支援学級 **小学校** の様子(例)

社会生活に必要な生活習慣をより確かなものにして、一人ひとりに合わせた学習指導等を行います。



#### 教科学習

実態に即して小さいグループで授業を受けます。一人ひとりの実態に即した授業内容にすることで、より学習が定着します。様々な教材・教具を活用し、特性に応じた授業を行っています。

日誌	月	日
日次	曜日	天気
今日の予定	チェック項目	
1	・きのうねた靴こく(時分)	
2	・今日おきた靴こく(時分)	
3	・つめはきってありますか(はいいいえ)	
4	・爪の甲はきれいですか(はいいいえ)	
5	・ハンカチチーフシヨはもってききましたか(はいいいえ)	
6		
下校時刻	時	分

#### 日常生活の指導

今日1日の予定を確認して、日誌を書きます。この日誌のチェック項目は課題によってそれぞれ内容を変えていきます。目標を絞って、少しずつ着実に基本的な生活習慣を身につけていきます。



#### 掃除の学習

先生が細かく切った紙をゴミに見立て、ほうきの使い方、ゴミの集め方などの掃除方法を学びます。身の周りの整理整頓ができる力や綺麗な状態を保とうとする意識を育てていきます。



#### 生活単元学習

##### <制作単元>

作品展に出品など目標をもって制作していきます。手指の巧緻性や集中力が身につく、一つひとつの作業の積み重ねが成果となって表れることを学んでいきます。



①刺しゅうの事前練習です。布の向こう側はどう作業をしていけばよいか、針はどのように動かしていけばよいのかイメージができます。



②斜めの刺しゅうがあらかじめ入っており、ボタンになるように縫っていきます。最後にはスウェーデン刺しゅうの世界地図が完成します。

##### <生活課題単元>



調理・買い物は意欲的に取り組める単元の一つです。例えば作る料理が決まったらどんな食材が必要なのか調べます。地図を見て、その食材が売っているお店を探して買い物へ行き、調理をします。解決策を考えるのも大切な学習です。この一連の体験を通して、様々な教科学習の内容を学び、身につけていきます。

### 交流および共同学習 **小・中学校共通**

小・中学校すべての課程で行います。豊かな経験を得て社会性を養う場となったり、多様な人・考え方を知り、違いを認め支え合う大切さを学ぶ場となります。



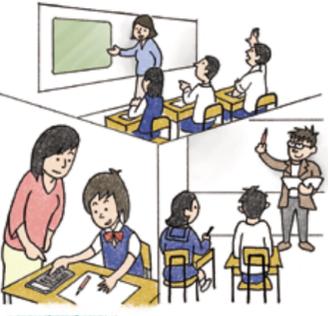
### 特別支援学級 **中学校** の様子(例)

社会生活に必要な学力や意欲、態度を育てる指導を行います。



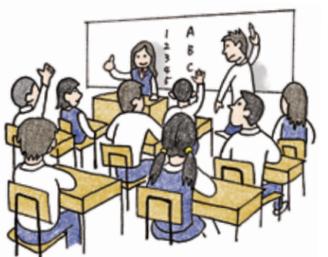
#### 朝の活動

健康状態を確認の上、一日の始めにランニング等を行い、意欲や態度を引き出します。日常生活に必要な体力や筋力をつけることが目的です。



#### 教科学習

習熟度別や実態に即して学習します。一人ひとりの学び方に応じて授業展開をしていきます。例えば計算学習では、様々な教材・教具(ブロックや電卓など)を使う工夫をし、より定着しやすい学習の仕方で行います。



#### 学級活動

行事や新学期の係決めなど、議題を決めて自分たちが中心になって話し合いをします。自分の意見を伝えたり、自分とは違う意見を受けとめたりしながら議題について考えていきます。決めたことに対するの責任感を持ち、最後までやり抜く力を育てていきます。



#### 作業学習

本棚を作る単元では、あらかじめ型紙をパーツごとに用意しておきます。釘の場所に穴があけてあり、どこに釘を打つかがわかり、自分で作業を進めることができます。社会生活や仕事をすすめる上で必要となる基本的な技能や態度の習得を目指します。



#### 職場体験

本人の関心や希望を考慮しながら体験先を決めていきます。体験先の理解と協力を得て事前指導から実践に至るまで、一つひとつの過程を丁寧に指導していきます。将来の職業生活や社会自立のために必要な知識、技能、態度を習得する機会となります。

